令和２年３月 26 日　制定
令和３年３月 29 日　改訂
令和４年３月 29 日　改訂
令和５年３月 30 日　改訂
令和６年３月 28 日　改訂

学校法人福岡大学中長期計画

Ⅰ．学校法人福岡大学中長期計画(2020-2034)策定にあたって

2034 年(創立 100 周年)の目指すべき将来像

時代と社会の要請に即応し、総合力を力強く発揮することで、
地域と世界に向け、躍動する人材の育成とイノベーションを創出する拠点を目指す

本法人の中核である福岡大学の創立 100 周年に向けて、上述の将来像を実現すべく、これからの 15 年を 3 期に分けて計画を策定する。大学の「建学の精神」「教育研究の理念」の下、第 1 期の 5 年間(2020-2024 年)は、創立 80 周年(2014 年 5 月)に策定した「福岡大学ビジョン 2014 - 2023」を踏まえ、新たな項目を加えた 5 項目を本法人における指針とする。

また、本法人の設置校や医療施設においては、各々の理念、方針の実現に向け、この指針の取り組みを進めていく。

【各設置校、医療施設の理念等】

●福岡大学

【建学の精神】

「思想堅実」　考え方がすぐれており、独断や偏見に走らず一貫性を持っていること
「穏健中正」　温和で包容力があり、偏りがなく中庸を備えていること
「質実剛健」　真心を持って責任を果たし、心身ともに健やかで何事にも屈しないこと
「積極進取」　善いことは自ら進んで前向きに行動すること

「建学の精神」に基づいた呼びかけを行う！！

Fukuoka University's Five Ss

Steady
Sensible
Sincere and **S**trong
Spirited

ステークホルダーに対して幅広く「建学の精神」を伝えるために、上記のような形で掲げます。

【教育研究の理念】

「建学の精神」に基づいた全人教育を目標として、「教育研究の理念」に掲げる三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを使命としている。

「人材教育（Specialist)」と「人間教育（Generalist)」の共存

「人材教育」と「人間教育」は、共存することによって「知」と「心」を磨き、高い倫理観をもって社会的責任を果たし、真に豊かで夢を描くことができる社会づくりに貢献する 21 世紀型市民の育成を可能とする。

「学部教育（Faculty)」と「総合教育（University)」の共存

「学部教育」と「総合教育」は、共存することによって学部や大学院における専門分野に特化した教育研究を異分野横断型の学際的教育研究へと発展させ、より高いレベルの新しい知と技術を創造しそれらを社会に還元していくことを可能とする。

「地域性（Regionalism)」と「国際性（Globalism)」の共存

「地域性」と「国際性」は、共存することによって地域を支える人材を育てるとともに、国際的に活躍できる、異文化を理解する寛容な精神をもった人材の育成を可能とする。

【三つのポリシー】

○アドミッション・ポリシー

本学の「建学の精神」を理解した、次のような人たちを広く国内外から受け入れる。

１．考え方がしっかりしており独断や偏見にとらわれない生き方を求める人
２．温和で包容力がありバランス感覚に優れた能力を身につけたい人
３．誠実で責任感が強く何事にも屈しない人生をめざす人
４．新しいこと、困難なことに自ら進んで取り組んで行こうとする人

○カリキュラム・ポリシー

本学の「教育研究の理念」に基づき、すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部学科の教育目標にあわせたカリキュラムを編成する。また、正課外教育においても、充実した各種教育プログラムを展開し、全教職員で本学学生の人間的成長を支援し、全人教育を実現する。

１．全学に提供する共通教育科目をとおして、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成
２．各学部学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能を高め、社会の進歩や変革に応え得る深い学識を有する人材を育成
３．様々な教育プログラムをとおして、国際性と地域性を兼ね備えた 21 世紀に通用する人材を育成

○ディプロマ・ポリシー

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

１．修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決する力
２．職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力
３．自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる力

【福岡大学ビジョン 2014-2023】（詳細最終ページ参照）

福岡大学は、九州に位置する総合大学として地域との絆を大切にしつつ、時代や社会の要請に応じて教育・研究・医療の拠点として広く社会に貢献。重点項目は次の通り。

① 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供
② 先進的で高度な研究活動の遂行
③ アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成
④ 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

●福岡大学病院

【基本理念】

「あたたかい医療」

・社会のニーズに応える患者中心の医療の提供
・高度先進医療の指導的病院
・地域に開かれた中核的医療センター
・社会に必要とされる優れた医療人の育成
・健康のための情報発信基地

●福岡大学筑紫病院

【基本理念】

「あたたかい医療」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。

その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に、患者さん本位の〝あたたかい医療〟を実践しています。

●福岡大学西新病院

【基本理念】

「地域に信頼されるあたたかい医療の提供」

～地域の皆様のかけがえのない健康を守る高度で良質な医療を提供します～

・地域医療連携の推進
・質の高いチーム医療の提供
・切れ目のない医療の提供
・臨床研究の推進と医療従事者の育成
・魅力ある職場づくりと健全な病院経営

●三病院（福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院）の経営改革方針

Three Hospitals, One Team

Our Goals:　4T

Team management　　健全な経営

三病院は、あたたかい医療（高度で良質な医療）を提供する社会的使命を担っており、その使命を永続的に果たしていく責務があります。そのためには、経営基盤の安定が必要不可欠であり、全職員に経営意識の浸透を図り、一丸となって健全な経営に努めます。

Team network　　三病院ネットワークの構築

特定機能病院である福岡大学病院を核とし、福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院の三病院におけるヒト、モノ、カネなどあらゆる面での連携を進め、組織力・機動力の強化、効率性の向上を図ります。

Team vision for the future　　将来構想の策定

国の医療政策や地域社会の変化を見据えて、今後、各病院がどこを強化し、どのポジションを目指すのか、確かな根拠のもとに中期的視点で方向性を明確にします。

Team cooperation　　学部・研究科等と病院の連携促進

総合大学が設置する病院という特長を最大限に活かし、学部・研究科等との連携、知的・人的資産の相互活用を図り、優位性を発揮します。

●福岡大学附属大濠高等学校・中学校

【教育理念】

〇教育方針（高校）

１．日本人としての自覚と誇りを持たせる

２．道徳教育を通じて人間性を高める

３．広く自主活動を促し能力を啓発する

〇教育目標（中学校）

１．国際的な視野を養い、適正な判断力と自主性を発揮する

２．高い知性と豊かな感性を培い、自由で伸び伸びとした活動をする

３．たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する

〇校　訓

明朗闊達　明るく自由にのびのびと活動する

自重敬他　自らを尊重すると共に他をも敬う

研学錬体　学びの意義を究め剛健な体を作る

進取創業　進んで事を為し新たな価値を創造する

●福岡大学附属若葉高等学校

〇校 訓　　強　正　優

〇教育理念

創造力と発信力を持って社会に貢献できる人の育成

気高く凛とした人間性豊かな人の育成

互いを認め合い、自ら考え判断し行動できる人の育成

〇基本方針

常に向上心を持って自ら学び続ける姿勢を育成する

幅広い教養とコミュニケーション力を高める

個人の才能を尊重し、文武両道を目指す

高い規範意識とモラルを身につけた、自律した人を育てる

Ⅱ．学校法人福岡大学中長期計画（第１期 2020-2024）の指針

福岡大学を中心に医療施設、附属学校を有する本法人は、九州に位置する総合大学として地域との絆を大切にしつつ、これからの社会状況（Society5.0、グローバル化、人生 100 年時代、人口減少等）や持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals,SDGs という）等の社会的課題を視野に入れ、時代や社会の要請に対応すべく、教育・研究・医療の拠点として広く地域に、そしてグローバルに貢献する。

１．時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供

時代とともに社会情勢は大きく変化し、それとともに教育のあるべき姿、必要とされる研究、求められる医療も変わろうとしている。教育においては、共に育つ「共育」を基礎として、社会の求める知識・能力・人間性を認識し、それらを備えた人材の育成に努める。研究においては、社会のニーズを敏感に受け止め、社会的に意義のある研究を遂行し、その成果を広く社会へ還元する。医療においては、特定機能病院、地域医療支援病院として、社会の求める安全かつ質の高い「あたたかい医療」を提供する。

２．先進的で高度な研究活動の遂行

本学は、これまで人文・社会科学、理・工学、薬学、医学、生命科学の諸分野で数多くの研究成果を上げてきた。今後とも、真理を探究し学問の発展に寄与することを大学の責務とし、先進的で高度な研究活動を遂行しその研究成果を世界に発信する。

３．アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成

政治・経済、文化等様々な側面において、グローバル化が急速に進む社会に対応できる人材の育成は、教育機関としての重要な役割である。本学では、アジアの玄関口としての福岡の特性を重視し、アジア諸国との関係を中心にした人材教育を行う。アジア諸国を中心にした優秀な留学生の受け入れや、日本人学生の海外派遣を通じて、国際的な視野と活動能力をもつグローバル人材を育成する。

４．福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

本法人は、福岡の地で地域社会との密接な関係の中で発展してきた。これからも地域との絆を重視して、社会の中核を担う人材の育成、地域の産業界との産学連携事業の展開、市民向けの教育・研究に基づいた啓発活動、文化・スポーツ活動、医療活動などによって地域に貢献し、地域の活性化と発展に寄与する。

５．変化の激しい時代に対応できる柔軟性のある組織の構築、財政基盤の強化

上述の１～４を着実に推進し、教育・研究・医療・社会貢献の更なる向上を目指すために、柔軟性のある組織の構築と財政基盤の強化のもと、安定的な経営基盤を確立する。

Ⅲ．中長期計画（第１期 2020-2024）における目標と推進項目（詳細は p.８以降参照）

第１期の指針を踏まえ、次の５つの重点項目について目標と推進項目を設定する。これらの実現に向けての方策については、本法人内の各種方針・指針・ポリシー等の基本的な考え方を踏まえ、我が国の文教政策等を睨みながら、大学（学部学科、部局）、各医療施設、附属学校各々の単位で計画（ロードマップ）を策定するとともに、各年度の事業計画の中で具体的に定めていく。また、その達成度合いを検証するために、適宜、重要目標達成指標（Key Goal Indicator, KGI という）等を活用し、ステークホルダーの満足度等を確認していく。なお、第１期の期間中であっても、社会状況、国の施策、ステークホルダー等の変化、そして本法人の経営状況等に鑑み、適宜見直しを行うとともに、各種法令や私立大学ガバナンス・コード等に求められる事項への適合を図っていく。

１．教　育

～時代の要請や社会のニーズ等社会の変革に対応した魅力ある教育を行うことで、時代を牽引できる人材を育成する～

Ａ）大学

(1)総合大学の強みを活かした文理融合教育の展開

①学部横断的な教育プログラムの設置　②大学院の改組　③共通教育の再構築

(2)多様な人が集うダイバーシティ・キャンパスの実現

①組織横断的な総合学生支援体制の構築　②グローバルな人材を育成するための教育環境の構築　③外国人留学生の受入れを加速する入試制度・カリキュラムの構築　④リカレント教育の充実

(3)教育の質向上と学生の学習促進

①全学的教学マネジメント体制の再構築　②学士課程教育の充実　③内部質保証システムの再構築　④学習成果を測定する評価指標の開発　⑤キャリア教育の充実　⑥高大接続の強化　⑦新たな学習環境の整備

Ｂ）附属学校

(1)中学・高校教育の質向上と大学との連携強化

①教育課程の充実　②教育環境の整備　③大学と附属学校および附属学校間における連携促進　④安定的教育推進のための経営基盤の確立

２．研　究

～時代の要請や社会のニーズを睨んだ先進的で高度な研究を行うことで、新たな学びの場を創出するとともに社会発展に寄与する～

(1)研究高度化の推進

①総合大学の強みを活かした分野横断型研究の展開　②研究推進体制の強化、制度の整備

⑵ 研究成果の社会還元

①研究ポテンシャルを活かした社会還元

３．医　療

～安全かつ質の高い医療の提供と次世代を見据えた医学教育を実践するとともに、それを支える安定的な経営基盤を構築する～

⑴ 安全で安心な高度先進医療の提供

①医療安全教育の徹底　②患者中心の医療の提供　③優れた医療人の育成

⑵ 経営の安定

①経営・運営体制の整備　②各医療施設および医療圏の特徴を生かした適切な医療の展開　③社会情勢を見据えた将来構想の立案　④社会連携センターと医学部および各医療施設との連携強化

４．地域連携・社会貢献

～本学の有する教育、研究、医療、スポーツのポテンシャルを活かし、かつその促進につながる地域連携を実現する～

⑴ 教育・研究活動の促進につながる地域連携活動の実現

①連携活動の促進と事業実施部署間の接続強化や事業の集約化

⑵ 地域産学官の活動と一体となった社会貢献活動の促進

①産学官が一体となった「福岡未来創造プラットフォーム」中長期計画に基づく諸事業の展開

５．組織改革・人事制度・財政基盤・施設整備

～経営・運営基盤の強化と魅力ある教育環境の整備を目指す～

⑴ 変化の激しい時代に対応できる一体性・柔軟性・スピード感を持った組織の構築

①戦略的経営を行うためのガバナンス体制、審議体制、意思決定プロセスの再構築　②経営力強化のための組織再編　③経営 IR の構築　④業務の抜本的見直し　⑤危機管理体制の充実

⑵ 働きがいのある職場環境の整備

①職務の目的・意義等の明確化　②働き方改革、長時間労働の縮減　③次世代を担う若手教職員の育成強化　④多様な人材の活用

⑶ 財政基盤の強化（収入増・経費削減）

①学生・生徒の確保　②医療収入の確保と支出の抑制　③スケールメリットおよびワンキャンパスを活かした業務の集中化、効率化による経費の適正化および削減　④事業構造および収支構成比の見直し　⑤人件費の見直し

⑷ 教育研究施設の充実

①計画的なキャンパス整備の実現　②施設の建替え　③施設・設備の有効活用　④魅力ある屋外空間の創出　⑤施設の耐震化・バリアフリー化　⑥教育・研究および管理業務に対応する情報インフラの整備

１．教　育

～時代の要請や社会のニーズ等社会の変革に対応した魅力ある教育を行うことで、時代を牽引できる人材を育成する～

Ａ）大学

(1) 総合大学の強みを活かした文理融合教育の展開

①学部横断的な教育プログラムの設置	技術革新や多様化する社会の動きに鑑み、ワンキャンパスの総合大学という本学の教育環境を最大限に活かし、学生に多様な学習機会を提供するため、学際的教育プログラムの設置に向け取り組む（例：学部オープン科目、副専攻制、学部等連携課程ほか）。
②大学院の改組	大学院への進学希望者の著しい減少を踏まえ、かつ社会に求められる高度な人材の育成を目指し、文理融合や学際横断的な教育プログラム等を視野に入れての大学院の改組（再編・統合を含む）を進める。
③共通教育の再構築	「教育研究の理念」に謳う「学部教育と総合教育の共存」を目指すとともに、変化の激しい時代にも対応できる汎用的能力を持つ学生の育成やデータサイエンス等現代的なリベラルアーツを提供するため、時代に即した新たな「共通教育の理念」のもと、共通教育のカリキュラムを再構築し科目の充実を図る。

(2) 多様な人が集うダイバーシティ・キャンパスの実現

①組織横断的な総合学生支援体制の構築	今後大学は、学力、学習歴、性別、国籍、人種、年齢等が異なる多様な学生が集い、学ぶ場になることが想定できる。多様化する学生に対応し、かつ「教育研究の理念」や DP に即した教育を実施していくために、組織を横断して、学習面、健康面（心身共）等様々な支援を行っていく必要がある。これらを実現するための体制構築、制度設計等を進めていく。
②グローバルな人材を育成するための教育環境の構築	今後ボーダーレス化が進み、地域と世界がより近いところに位置する時代を生きていくために必要な教育の在り方等を検討し、より国際化に即した教育を実践、推進していく。
③外国人留学生の受入れを加速する入試制度・カリキュラムの構築	「教育研究の理念」に謳う「国際性」を具現化するため、本学での学びを希望する意欲の高い外国人留学生に対し、その門戸を拡大することも一案となる。外国人向けの入試制度や講義の在り方（英語の授業によるカリキュラムの構築、日本語教育の充実）、そして留学生受け入れの支援体制等についての検討を進め、多様な学生に対応できる大学を目指す。
④リカレント教育の充実	高度人材養成のための社会人の学び直しや人生 100 年時代における幅広い世代の生涯学習を支援するため、学部および大学院において複数の履修証明プログラムを設置するとともに、本学の教育リソースを活用した多彩なエクステンション講座を開講する。

⑶教育の質向上と学生の学習促進

①全学的教学マネジメント体制の再構築	大学全体としての学部・大学院、共通教育・専門教育・課外教育等を一体的に考え、大学が目指す人材育成像に向けた教育活動を推進するための組織、制度等の体制構築を目指す。その一環として、教育推進会議を学士課程および大学院に係る教学全体の審議機関として位置づけ、大学全体として、学部・大学院、共通教育・専門教育・課外教育等を一体的にマネジメントする体制を構築する。
②学士課程教育の充実	教育内容の充実を図ることでその効果を高め、質を保証し、本学の目指す人材の育成を実現するために、「カリキュラムのスリム化」「少人数教育の拡大」「基準授業時間数の見直し」「専任・非常勤比率の基準化」「学年暦、講義時間等の検討」をはじめ、教育の充実に向けた諸課題や自己点検・評価における諸課題への検討を進める。
③内部質保証システムの再構築	本学における教育の質を保証し、各学部・研究科およびその他の組織において、3つのポリシーに基づき、年度計画・年度総括を策定することで1年間の諸活動のPDCAを確立する。さらに各組織の自己点検・評価を4つの領域別に内部質保証を推進する会議体（教育推進会議、研究推進本部会議、地域連携推進会議、企画運営会議）および全学的に内部質保証を推進する自己点検・評価推進会議が点検・評価し必要な改善指示を行うことで、教育研究活動の質保証および改善に努める。
④学習成果を測定する評価指標の策定	学習成果を多面的に測定し、カリキュラム編成等教育改善に活かすために、既存の新入生・在学生アンケートおよび授業アンケート（FURIKA）の活用を推進するとともに、多様な観点からの学習成果の測定方法等を把握し、評価指標を策定する。
⑤キャリア教育の充実	学生一人一人が、これからの社会を生き抜く力を育むために、正課、正課外の教育を通して、普遍的な考えと、これからの社会情勢を睨んだ中での知識、そして人らしき人の育成に努めていく。
⑥高大接続の強化	附属学校との連携強化を進めるための組織体制の充実を図り、一貫教育、大学入学前教育等の充実を図っていく。また附属学校以外においても対応できる接続強化策を模索する。
⑦新たな学習環境の整備	学生の主体的な学習を促進し、常に学習を支援する環境（施設面、制度面等）を整備する。

Ｂ）附属学校

⑴中学・高校教育の質向上と大学との連携強化

①教育課程の充実	各附属学校の特性を活かした人間教育、中等教育を行うことで、各々の在校生の進路希望等の実現を目指す。そのために、アクティブ・ラーニング、キャリア教育、グローバル教育、正課・正課外教育、進路指導等の充実を図る。

②教育環境の整備	教育課程の充実を図る上で必要となる環境整備を逐次進めていく。
③大学と附属学校および附属学校間における連携促進	教育活動を推進する上で、大学と附属学校間、および大濠、若葉各附属高校間での人的交流を進め、双方の有するポテンシャルの相乗効果を狙う。
④安定的教育推進のための経営基盤の確立	安定的に教育活動を推進し、向上を図るために、その基盤となる組織体制・制度の確立、志願者確保を進める。

２．研　究

～時代の要請や社会のニーズを睨んだ先進的で高度な研究を行うことで、新たな学びの場を創出するとともに社会発展に寄与する～

(1) 研究高度化の推進

①総合大学の強みを活かした分野横断型研究の展開	西日本最大規模の総合大学としてのポテンシャルを活かして、社会の課題解決につながる研究を展開することで、より本学の社会的価値を高めていく。
②研究推進体制の強化、制度の整備	研究を推進していくうえでのコンプライアンスの確保、推進を妨げる要因の排除等を行うことで、学内の研究全体の活性化を図っていく。（例：研究マネジメント人材（University Research Administrator,URA という）等による研究者支援、臨床・非臨床研究の支援組織（Academic Research Organization,ARO という）体制の整備、研究時間の確保、外部資金の獲得、若手研究者等の育成体制構築、研究評価制度の構築等）

(2) 研究成果の社会還元

①研究ポテンシャルを活かした社会還元	総合大学、文理多分野にわたる専門性、ワンキャンパスといった本学の独自性、特徴を活かした研究を通して社会への還元をより強化することで、本学の社会的意義を高めることを目指して、より幅広い活動を推進する。

３．医　療

～安全かつ質の高い医療の提供と次世代を見据えた医学教育を実践するとともに、それを支える安定的な経営基盤を構築する～

(1) 安全で安心な高度先進医療の提供

①医療安全教育の徹底	医療安全をはじめ様々な教育・研修の内容を検討し、状況把握、統括管理（年間計画）を行う体制を整備し、継続的な資質向上を目指す。

②患者中心の医療の提供	患者の権利を明確にし、かつ患者の権利の擁護に努めることが求められている。これらを具体的かつ継続的に行うために、患者が理解できる説明と、同意を得る診療行為についての基準の明確化に努める。
③優れた医療人の育成	医師をはじめとする医療従事者には、専門的な知識とスキルが不可欠であり、人間性と高度な専門性を有した優れた医療人を育成する大学病院としての明確な方針を定め、それを実現するための体制、制度の整備を進める。

(2)経営の安定

①経営・運営体制の整備	社会保障費の増加に伴い、医療を取り巻く環境が今後より厳しくなることを踏まえ、効率的かつ効果的な病院運営を行うため、各医療施設が連携して運営を行える体制構築を目指す。
②各医療施設および医療圏の特徴を生かした適切な医療の展開	各医療施設の強みをより強化することで、各医療施設の社会的意義をより強固なものとし、かつ各医療圏から求められている社会ニーズを踏まえた医療展開を行う。
③社会情勢を見据えた将来構想の立案	西新病院については、今後の経営の安定化を図る上でも、医療圏の状況や社会情勢を踏まえた上で事業方針を定める。
④社会連携センターと医学部および各医療施設との連携強化	診療行為以外での医療に関する地域貢献を進め、地域の医療拠点としての地位を確固たるものとすることを目指し、医学部および各医療施設と社会連携センターとの連携強化を図る。

４．地域連携・社会貢献
～本学の有する教育、研究、医療、スポーツのポテンシャルを活かし、かつその促進につながる地域連携を実現する～

(1) 教育・研究活動の促進につながる地域連携活動の実現

①連携活動の促進と事業実施部署間の接続強化や事業の集約化	教育、研究、医療、スポーツにかかわる各部署において、地域連携や大学間連携を積極的に実施している現状を踏まえ、より効率的かつ効果的に促進させるために、社会連携センターを中核として組織間の接続強化を進める。また、類似する事業の集約化を進める。

(2) 地域産学官の活動と一体となった社会貢献活動の促進

①産学官が一体となった「福岡未来創造プラットフォーム」中長期計画に基づく諸事業の展開	「福岡未来創造プラットフォーム」中長期計画（R1-R5)に基づいた各事業（「学生募集」「地域人材育成」「地元就職・定着」「生涯学習」「大学・自治体・産業界交流」）の推進につながる本学事業の立案を進める。

５．組織改革・人事制度・財政基盤・施設整備
～経営・運営基盤の強化と魅力ある教育環境の整備を目指す～

(1)変化の激しい時代に対応できる一体性・柔軟性・スピード感を持った組織の構築

①戦略的経営を行うためのガバナンス体制、審議体制、意思決定プロセスの再構築	学校法人を取り巻く環境が益々厳しくなり、かつ変化の激しい時代になっている。この状況に対応するためには、戦略的経営が不可欠であり、コンプライアンスおよび透明性の確保の観点も含めたうえで、学校法人の経営における理事会、評議員会、監事の在り方、責任を再検討、再確認する必要がある。また、ガバナンス体制（決定権限（責任と権限）の明確化、常勤監事の設置等）や各種審議体制を再構築するとともに、意思決定プロセスの整理を行う。
②経営力強化のための組織再編	経営改革、教育改革が不可欠な状況を鑑み、限られた経営資源を有効に活用し、今後の進むべき道を模索する上での体制整備を図る。体制整備にあたっては、法人の中核である大学がワンキャンパスであることを活かし、組織のスリム化・統廃合・集約化を進める。
③経営 IR の構築	戦略的経営を行う上で不可欠な法人・設置校等の客観的数値を、俯瞰的に把握し、それに基づく経営判断を実施できる体制を構築する。
④業務の抜本的見直し	限られた経営資源で、より広範囲かつ高度な業務を推進するために、業務の簡素化・省力化（ペーパーレス化等）、集約化、情報コミュニケーション技術（Information and Communication Technology,ICT という）等先進技術の活用、コア業務の集中化、より高度な業務に対応しうる事務職員の育成、教職協働の推進等を視野に入れ、従来業務の見直しを図るとともに、経営改革、教育改革に資する業務への比重を大きくする。
⑤危機管理体制の充実	地震、台風等自然災害のみならず、事件、事故、情報漏洩、法的諸問題等、本法人・設置校等の危機的状況に対応するための体制整備、制度設計を進める。また、自然災害後の早期の事業回復を図れる体制整備を進める。あわせて組織として実効的に対応できるような訓練も行う。

(2)働きがいのある職場環境の整備

①職務の目的・意義等の明確化	職種を問わず、組織全体として、各々が担う職務の目的・意義・目標を改めて振り返り、明確化することで、より効果的かつ効率的な業務の遂行に取り組み、個々のモチベーションアップにつなげていく。
②働き方改革、長時間労働の縮減	働き方改革を進めること等で、職員の長時間労働の縮減、健康維持管理を進めるとともに、業務の見直し等につなげていく。また職場環境の維持、向上に向け、ハラスメント対策等により力を注ぐ。

③次世代を担う若手教職員の育成強化	①に掲げる事項を念頭に、次世代を担う若手教職員への育成制度（SD）を更に強化することで、スキルアップを図るとともに、次期中長期計画の策定にも関わらせることで、経営人材の育成にもつなげる。
④多様な人材の活用	多様な人材の活用による組織の活性化を図るため、男女共同参画の施策（例：研究者支援、役職員登用等）や、障がい者の積極的雇用につながる施策を進める。

(3)財政基盤の強化（収入増・経費削減）

①学生・生徒の確保	法人内の設置校、各病院のブランド力を向上させ、幅広いステークホルダーの理解、共感を得ることで、大学、附属学校における志願者（実数）を安定的に確保し、かつ学力レベルを担保すべく、その対策を講じる。
②医療収入の確保と支出の抑制	3 医療機関の特徴を生かした診療体制を構築するとともに、3 医療機関が連携することで、支出抑制策を講じ、収支構造の改善を図る。
③スケールメリットおよびワンキャンパスを活かした業務の集中化、効率化による経費の適正化および削減	スケールメリットおよび大学においてはワンキャンパスであることを活かし、かつ業務の集中化（組織の集約化を含む）、見直し等による効率化を進めることで、管理経費および教育研究経費の適正化や経費削減を図る。
④事業構造および収支構成比の見直し	非病院部門（収入超過）が病院部門（現在法人全体の 50%超の規模で支出超過）を支えている事業構造の見直しを進めつつ、経営基盤の強化を目指して、収入源の多様化（資金運用・収益事業の充実、寄付金事業の強化）を図る。また、成果に基づく予算編成を行うための評価文化の構築、選択と集中、スクラップ＆ビルドを進める。
⑤人件費の見直し	本法人と同規模、類似の組織構成の法人と比較し、本法人の人件費比率は高い水準にある。組織の永続性に鑑み、人件費のあり方自体を見直すための手段を講じる。

(4)教育研究施設の充実

①計画的なキャンパス整備の実現	ファシリティマネジメント（FM　企業・団体等が組織活動のために、施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動）の考え方を活かし、一体感のあるキャンパスの創出に向けたマスタープラン（建物建設・建替えの優先順位、建設時期、建設場所、建物・施設利用、メンテナンスを含めた経費等に関する計画、およびそのグランドデザイン）を策定する。このプランに則って、計画的かつ継続的にエコキャンパス、バリアフリーキャンパスの実現を目指す。

②施設の建替え	現在進めているプール、自修寮、体育寮、病院新本館の建設を進める。また、キャンパス全体の将来構想（B 棟、C 棟等の建設等）を描いたキャンパスマスタープランや耐震化 100%に向けた計画に則り、施設の建替えや改修を計画的に進める。
③施設・設備の有効活用	大学においては、ワンキャンパスのメリットを活かし、施設・設備は共有のものとして、最大限に有効活用し、経費削減に努める。
④魅力ある屋外空間の創出	キャンパス全体を一つの街として、また学生・生徒の生活の場として捉え、建物のみならず、空間全体を視野に入れたキャンパスデザインを策定し、その実現を目指す。
⑤施設の耐震化、バリアフリー化	文部科学省の補助要件としても施設の耐震化が求められており、早期の施設耐震化を進めるとともに、バリアフリー化も視野に入れ進める。
⑥教育・研究および管理業務に対応する情報インフラの整備	キャンパスネットワークおよび教育研究メディアシステムの導入により、より高度な教育・研究の実現に寄与し、かつ各種管理業務の効率化を図る。また、次世代に向けた大学全体の情報システムやウェブサイトに関する基本的な考え方を策定し、その実現を目指す。（例：教職員や学生が個人の端末を学校に持ち込み、教育学習に用いる BYOD（Bring Your Own Device）への転換、業務システムのノンカスタマイズパッケージ化、学生・教職員データベースの一体化、ウェブサイトの統一化等）

2020-2024年度における各種状況（財政的側面、本法人の動き、外部状況、人口動態予測）

令和6年3月28日改訂

項目			2020（R2）年度	2021（R3）年度	2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	参考・備考
財政的側面	財政目標	法人全体の基本金組入前当年度収支差額	1,050百万円	1,389百万円	1,632百万円	1,235百万円	498百万円	
		予算編成方針に基づく目標値	・経常収支差額比率1%の確保 人件費　予算比伸び率　0% 教研費　予算比伸び率　△1% 管理経費　予算比伸び率　△1%	法人全体の経常収支差額10億円確保	法人全体の経常収支差額32億円確保	法人全体の経常収支差額19.5億円確保	法人全体の経常収支差額1.0億円確保	
			・令和2年度目標値 ①資金収支予算の翌年度繰越支払資金 ②事業活動収支予算の経常収支差額比率 福大病院　①△9.6億円　②△1.0% 筑紫病院　①△2.1億円　②△2.6% 西新病院　①1.9億円　②3.5% 博多駅ｸﾘﾆｯｸ　①△1.6億円　②△74.7% 大濠高校・中学　①3.9億円　②7.5% 若葉高校　①△0.3億円　②△6.5%	・令和3年度目標値 ①資金収支予算の翌年度繰越支払資金 ②事業活動収支予算の経常収支差額 大学　①△4.9億円　②30.4億円 福大病院　①△0.4億円　②△14.1億円 筑紫病院　①△3.6億円　②△6.0億円 西新病院　①0.0億円　②0.0億円 大濠高校・中学　①2.7億円　②0.5億円 若葉高校　①△2.6億円　②△0.8億円	・令和4年度目標値 ①資金収支予算の翌年度繰越支払資金 ②事業活動収支予算の経常収支差額 大学　①20.4億円　②42.1億円 福大病院　①△21.2億円　②△7.2億円 筑紫病院　①△1.9億円　②△3.2億円 西新病院　①0.1億円　②0.4億円 大濠高校・中学　①3.5億円　②1.0億円 若葉高校　①△0.6億円　②△1.2億円	・令和5年度目標値 ①資金収支予算の翌年度繰越支払資金 ②事業活動収支予算の経常収支差額 大学　①30.0億円　②30.0億円 福大病院　①△150.0億円　②△12.0億円 筑紫病院　①1.0億円　②0.0億円 西新病院　①0.5億円　②0.0億円 大濠高校・中学　①2.0億円　②1.0億円 若葉高校　①1.0億円　②0.5億円		
	大型投資（建設関係）	プール建設	・新公認室内プール建設(～R3.2 34.4億円)	・旧プール解体→跡地の緑化整備				
		学生寮建設		・自修寮、体育寮の設計見直し（感染症等対応のため） ・体育寮(男子)竣工(11月) （旧体育寮解体） ・キャンパスマスタープラン及び施設の耐震化計画を策定し、今までの各種建設計画の全面見直し	・自修寮(男子)竣工(12月) ・体育寮(女子)竣工(R5.2月) （旧自修寮解体）	・自修寮(女子)竣工(R6.2月)		
		文系学部棟建設	・文系学部棟建設開始(6月 80億円)→一時休止					
		耐震化対策	・水理衛生工学実験室、衛生工学実験室、空気力学実験室　耐震改修工事実施 ・耐震化への対策が必要な建物の対策の早期検討 （大学本館、1号館、医学部研究棟本館・別館、健康管理センター、加工プロセス実験室、7号館、大学病院研修センターA・B棟、附属若葉高等学校本館）			・非構造部材耐震対策 設計（A棟 他4件） 工事（文系センター棟1階 他2件）	・非構造部材耐震対策 設計（A棟 他3件） 工事（文系センター棟16階 他6件） （1号館解体） （健康管理センター解体）	・R10年度までに耐震化率100%達成 ・Is値0.3未満の施設は、R8年度までに耐震化完了 ・R3年度に耐震化に向けた年次計画の作成、公表を実施
		福岡大学病院本館建設	・福大病院新本館建設開始(4月 210億円)			・福大病院新本館建設 （12月）		
	大型投資（情報インフラ）	第6世代キャンパスネットワーク及び教育研究メディアシステムの導入	・キャンパスネットワーク導入　(R2.10-8.9 6年間 15.1億円) ・教育研究メディアシステム導入　(R2.10-7.9 5年間 12.6億円)					
本法人の動き	法人全体		・福岡大学ビジョン2014-2023					
	福岡大学	大学認証評価	・医学部医学科不適切入試への対応（追評価申請7月、R3.3月適合評価） ・第三期認証評価受審へ向けての対応準備	・自己点検・評価報告書作成	・第三期認証評価受審		・第四期認証評価における評価基準等への対応検討	・R8.7月末までに第三期認証評価における改善報告書提出
		その他	・やまなみ荘使用停止　・博多駅クリニック閉院	・やまなみ荘譲渡(7月)				
	福岡大学病院		・新本館建設			・新本館竣工(12月) ・福岡大学病院開院50周年		
	福岡大学筑紫病院		・そよご保育園開園	・病院医療機能評価機構による病院機能評価認定				
	福岡大学西新病院		・事務体制（業務委託）の見直し検討（～R3.3.31）			・こども病院跡地活用事業に係る優先交渉権者決定	・こども病院跡地への移転に係る準備	・R9年春頃 福岡大学西新病院新病院（仮称）開業予定
	附属学校					・附属大濠高等学校創立75周年		
外部状況	文部科学省高等教育政策の動向		・高等教育機関へのアクセスの確保（学生への経済的支援の充実） ・大学の教育の質保証・向上（教学マネジメントの確立、教育の質保証システムの確立、学習成果の可視化と情報公表の促進、組織の枠を超えた学位プログラムの制度化、多様なバックグラウンドの教員採用、教育プログラムの多様化、リカレント教育の推進、留学生交流の推進、大学院教育の体質改善等） ・研究力向上（研究人材、研究資金、研究環境の支援体制の強化） ・教育研究基盤・ガバナンス強化（経営基盤・ガバナンス強化、連携促進、産学連携の推進）		・学校法人ガバナンス改革 （学校法人制度改革「私立学校法改正法案骨子の公表（R4.5）」） ・大学設置基準の改正(R4.10)	・急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について（諮問）		
	高等教育界		・大学入学共通テスト導入 ・修学支援新制度開始 ・経常費補助金に係る入学定員超過率の厳格化（H27年度以降） ・大学設置基準における平均入学定員超過率に係る要件の厳格化（H31年度以降）	・第6期科学技術基本計画開始	・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 ・日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード（第1.1版）改訂	・第4期教育振興基本計画開始 ・日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード（第2.0版）改訂	・安心してこどもを産み育てられるための奨学金制度の改正 ・日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード（第2.1版）改訂	
	中等教育界			・新学習指導要領実施（中学）	・新学習指導要領実施（高校）	・高等学校教育の在り方ワーキンググループの中間まとめ		
人口動態（予測含む）	15-19歳人口 （R6.3更新） （各年10月1日現在の数値）	九州・沖縄	・66.8万人	・66.0万人	・65.4万人		・（2025年　65.0万人）	・（2035年60万人　2040年55.2万人　2045年53.0万人）
		福岡県	・24.2万人	・23.4万人	・23.2万人		・（2025年　24万人）	・（2035年22.5万人　2040年20.9万人　2045年20.2万人）
		福岡市	・7.28万人	・7.02万人	・6.93万人		・（2025年　7.81万人）	・（2035年7.78万人　2035年頃まで増加傾向。その後減少に転じる）
	18歳人口 （R6.3更新）	全国	・116.7万人	・113.7万人	・112.1万人	・109.7万人	・106.3万人	・（2030年105.0万人）
		九州・沖縄	・14.1万人	・13.7万人	・13.5万人	・13.3万人	・13.0万人	・（2030年13.5万人）
		福岡県	・4.75万人	・4.64万人	・4.56万人	・4.53万人	・4.43万人	・（2030年4.7万人）

【参　考】　　福岡大学長期ビジョンについて　　（平成 26 年 5 月制定）

福岡大学は、平成 26 年 5 月に創立 80 周年を迎えました。このたび、向こう 10 年の本学の進むべき方向性を明示すると共に、今後、具体的な施策や戦略を講じる際の重要な指針とするため、「福岡大学ビジョン 2014-2023」を策定しました。

福岡大学ビジョン 2014-2023

福岡大学は、九州に位置する総合大学として地域との絆を大切にしつつ、時代や社会の要請に応じて教育・研究・医療の拠点として広く社会に貢献します。特に、次の 4 つを重点項目とします。

① 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供
② 先進的で高度な研究活動の遂行
③ アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成
④ 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

1. 長期ビジョンの背景と必要性

福岡大学は、1934 年創設の福岡高等商業学校を起源とします。九州経済専門学校、福岡経済専門学校を経て 1949 年に福岡商科大学に昇格し、1956 年に福岡大学と改称しました。現在では、9 つの学部と 10 の大学院研究科を擁する西日本で最大規模の総合大学であり、2 つの大学病院、2 つの附属高等学校、1 つの附属中学校を有し、教育・研究・医療の一大アカデミック拠点となっています。

建学の精神として「思想堅実」、「穏健中正」、「質実剛健」、「積極進取」を掲げ、それに基づいた全人教育を理想としています。さらに、教育研究の理念として「人材教育(Specialist）」と「人間教育(Generalist）」の共存、「学部教育(Faculty)」と「総合教育（University)」の共存、「地域性（Regionalism）」と「国際性（Globalism）」の共存を標榜しています。この 3 つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを目的としています。本学は、以上のような建学の精神と教育研究の理念に基づいて、これまで社会を支える有為な人材を数多く輩出してきました。

今日、大学を取り巻く環境は大きく変動しています。人々の価値観や社会的ニーズの変化、人口動態の変化、グローバリゼーションの進展などがその要因です。このような中で、本学が教育・研究・医療という与えられた使命を全うし、これまで以上に社会に貢献していくために、今後 10 年間の活動指針として「福岡大学ビジョン 2014-2023」を策定しました。

2. 重点項目

① 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供

時代の動きとともに社会情勢は大きく変化し、それとともに教育のあるべき姿、必要な研究、求められる医療も変わろうとしています。教育に関しては、社会の求める知識・能力・人間性を認識し、それらを備えた人材の育成に努めます。研究においては、社会のニーズを敏感に受け止め、社会的に意義のある研究を遂行し、その成果を社会へ還元します。医療においては、西日本有数の特定機能病院、地域医療支援病院のもとで、社会の求める質の高い「あたたかい医療」を提供します。

② 先進的で高度な研究活動の遂行

本学は、これまで人文・社会科学、理・工学、薬学、医学、生命科学の諸分野で数多くの研究成果を上げてきました。今後とも、真理を探究し学問の発展に寄与することを大学の責務とし、先進的で高度な研究活動を遂行しその研究成果を世界に発信していきます。

③ アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成

経済のグローバル化が急速に進む中で、グローバル人材の育成は大学の重要な任務となっています。本学では、アジアの玄関口としての福岡の特性を重視し、アジア諸国との関係を中心にしてグローバル人材教育を行います。アジア諸国を中心に各国から優秀な留学生を積極的に受け入れ、日本人学生への刺激とします。アジア諸国の大学を中心に語学研修と留学の受け入れ先を用意して日本人学生を海外に派遣し、国際的な視野と活動能力をもつグローバル人材を育成します。

④ 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

本学は、福岡の地で地域社会との密接な関係の中で発展してきました。これからも地域との絆を重視して、社会の中核を担う人材の育成、地域の産業界との産学連携事業の展開、市民向けの啓発活動や教育文化活動などによって地域に貢献し、地域の活性化と発展に寄与していきます。

3. 長期ビジョンの位置づけ

「福岡大学ビジョン 2014-2023」は、福岡大学の今後 10 年間の活動方針を示すものです。これは、本学の建学の精神と教育研究の理念の下に位置し、具体的な施策の策定のための基本的な方向性を定めるものです。この長期ビジョンは、学内的には施策の企画立案の拠り所であり、学外的には福岡大学のアイデンティティと意思を表すものです。「福岡大学ビジョン 2014-2023」という指針のもとで、福岡大学は与えられた社会的使命を全うすべく活動を続けていきます。